

きれいな景色を残し、街に自然を取り入れています。

自然にやさしい土木

まわりの風景と調和した
ダムづくりが進められています。

ダム

洪水を防いだり、水不足に備えてたくさんの水をためておくのが、ダムの役割です。大きなダムをつくるには、周辺の風景や環境への気くばりはとても大切なこと。できるだけまわりの緑を残したり、花壇を設けて花を植えたり、ダムの壁を美しくデザインするなど、親しみのもてるダムがつけられています。



ビオトープの考え方で、街の中に取り入れられた自然のうらおい

街の中でも自然と親しめる、 潤いのある街づくりが求められています。 親水公園・ビオトープ

せせらぎや水辺を取り入れた公園や、水に親しめるタイプの河川が増えてきました。また、その場所に元々あった自然の姿を、そのままにつくっていかうという考え方がビオトープです。このように、自然をできるだけ残す努力をしたり、元の姿が変わってしまったところでは、自然の姿にもどすことを考えていけば、自然と人はもっと助け合っていけますね。



花に囲まれたダム



美しくデザインされたダム



水とふれあえる護岸

自然の風景にとけこむように、
デザインにも気を使っています。

自然の中の橋

生活を支える大切な道路や橋は、便利さや安全性だけでなく、その地域の風景をつくりだすものとして、色やデザインも十分に考えなければなりません。風景と橋の両方が美しく見えるようにすることも、土木の大切な仕事です。



[拡大写真] 周囲との景観調和をめざしてつくられている橋



[拡大写真]

川の水を調整するための河口堰

堤防や河口堰をつくるときも、
生き物がすみやすいように工夫しています。

河口堰・魚道

洪水を防いだり、水資源を確保するため、川の水をせき止めたり、海に流したりして調整する施設が、河口堰です。堤防や河口堰をつくるときには、川を「すみか」とする魚や虫たちを環境の変化から守り、すみやすくする工夫がされています。川の中の「魚道」もそうした工夫のひとつ。魚が上流にのぼって行きやすいように、段差をゆるやかにした魚のための道です。



魚のために、
河口堰といっしょに
つくられた魚道